

第3回「日本語体験コンテストinホーチミン」 実施報告

- 【実施日】 2010年10月24日(日) 予選会:10:00～ 本選会:13:00～
 【会場】 ベトナム・ホーチミン市 165 NAM KY KHOI NGHIA GUEST HOUSE
 【後援】 文部科学省/駐日ベトナム大使館/全日本空輸株式会社ホーチミン支店
 【協賛】 株式会社 共立メンテナンス/株式会社 ローソン
 【協力団体】 ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学
 ドンズー日本語学校
 さくら日本語学校
 サイゴンランゲージスクール

応募総数 96 名のうち、60 名が当日参加し、そのうち 21 名が予選会(日本語聞き取り問題 30 問)を通過、本選会(3 分間の即興スピーチ)へと進んだ。その結果、入賞した 5 名には賞状と賞品である「日本体験旅行(6 泊 7 日)」の目録が授与された。

予選会	10:00～10:05	開会の辞
	10:05～10:15	注意事項説明
	10:15～10:50	予選 (日本語聞き取り問題 30 問)
本選会	12:50～13:00	予選通過者発表 (21 名)
	13:00～13:05	開会の辞
	13:05～13:10	来賓の紹介 代表ご挨拶
	13:10～13:15	審査委員紹介 注意事項説明
	13:15～13:30	スピーチ準備
	13:30～15:00	スピーチコンテスト (本選会)
	15:10～15:30	余興
	15:30～15:35	講評 (江副審査委員長)
	15:35～16:00	表彰式 「夢・日本体験賞」発表 (5 名)

■ 午前の部 予選会



コンテスト受付



まずは受け付け!



予選会 聞き取り問題

■ 午後の部 本選会



予選通過者 21 名発表
オメデトウ!!



菊川実行委員長挨拶



来賓・名誉委員の方々



江副審査委員長



審査委員紹介（奥より村田先生
ドゥック先生、高山先生）



実行委員紹介（左から菊川実行委員長、
手塚総務委員長、SI 本部長）



スピーチコンテスト開始！
シンキングタイム



緊張しながらのスピーチ



各学校の歌や踊りの出し物で盛り上がりました！

■ 入賞者 5 名決定！！ 賞品旅行「夢・日本体験賞」

	氏名	カタカナ	学校名
1	TRINH THI SOAN	チン ティ ソアン	さくら日本語学校
2	DANG NGOC HA	ダン ゴック ハー	サイゴン ランゲージスクール
3	DUONG THI MANH HUYNH	ユン ティ マン フォン	サイゴン ランゲージスクール
4	VU KHANH LINH	ブ カン リン	サイゴン ランゲージスクール
5	NGUYEN PHUONG KHANH LINH	ゲン フォン カン リン	ドンズー日本語学校



コンテスト入賞者 5 名



前列左より Duc 審査委員、Thao 名誉委員（サイゴンランゲージスクール校長）、Danh 名誉委員（さくら日本語学校校長）、菊川実行委員長、Hoe 名誉委員（ドンズー日本語学校校長）、江副審査委員長、Lam Anh 先生（人文社会科学大学教員）、村田審査委員
後列左より 高山審査委員、奨学候補生採用者 3 名、コンテスト入賞者 5 名、西田副本部長、手塚総務委員長

審査委員 村田 秋良（日新アカデミー日本語学校 教員）



今回で3回目を迎えた「日本語体験コンテスト in ホーチミン」。1回目から審査員という立場で接してきましたが、回を重ねるごとに、参加者のスピーチのレベルが向上してきていると感じられました。本選スピーチ大会で3分間のスピーチ課題として用意された3つの題目のうち、「もし私が日本に行ったらぜひ体験してみたいのは……」を選んだ人は、自分の興味に絡めて話す人が目につきました。一般的なテーマであるし、自分が関心を抱いていることなら、緊張せずに話しやすいのではないのでしょうか。あとは、聴衆がおもしろいと思える内容であるかどうか勝負になってくると思います。「もし私が日本人と同じ部屋に住むことになったら……」は、言葉や文化を教えてもらうといった内容が多く、それは想定範囲内のもので意外性のあるものが少なかったように思います。「もし私が日本でビジネスを始めるとしたら……」では、日本人が気づかない発想に新鮮さが感じられました。3つの中では「もし私が日本に行ったらぜひ体験してみたいのは……」が最も話しやすいテーマではと思われましたが、終わってみると各テーマがほぼ均等に選ばれていました。

今、振り返ってみますと、第1回大会では、話す内容について整理し切れていないままスピーチに突入してしまった人が多かったのではという印象を持ちました。昨年度の第2回大会では、時間を意識するあまり焦ったり緊張したりしている学生が目についたのを覚えています。そして、今大会では、全体的に、準備を終えてからスピーチに臨んでいるという印象を受けました。もちろん、緊張のせいか言葉が止まったりする参加者の姿も見受けられましたが、物怖じすることなく、日本語で、自分が言いたいことを思い切り話す姿は実にたのしかったです。

こうした進歩の背景には、大会の趣旨が認知され、参加者もそれに合わせてレベルアップを図ってきたという側面もあるように思えます。今回、さくら日本語学校では、参加者を対象にスピーチの練習を積んだそうです。3回目ともなると、スピーチ課題も想定しやすかったのではないのでしょうか。

今後も、当コンテストの継続・発展とともに、ベトナムにおける日本語学習者のさらなる成長が期待できると思うと楽しみです。

審査委員 高山 怜子（日新アカデミー日本語学校 教員）



昨年に引き続き、審査委員を務めさせていただきました。今年も、たくさんの参加者が、日本へ行ってみたいという夢を持って、緊張しながらも、一生懸命思いを伝えようと頑張っていました。そのような姿を見て、どの参加者も日本へ来させてあげたい、と思わずにはいられませんでした。昨年と比較しながら感想を述べたいと思います。

まず、予選会は、問題が難しく、皆さん苦戦していたと思います。日頃から、教室内の勉強だけでなく、現在の日本事情や日本文化、教科書にはのっていない言葉にも興味を持って、楽しみながら、知識を身につけていってほしいです。中には本選会で、和菓子や人気グループ「嵐」、ごみの分別などをテーマにスピーチをしている人もおり、日本に対する関心の高さを感じました。

次に本選会では、今述べた他にも、スピーチのテーマを選ぶ際、目のつけどころの良かった人が多かったと思います。その人らしい、個性的な考えが聞けて、ときにほほえましく、ときになるほど、と思わされました。聞き手の興味をひくためには、一般的な話より、具体的な話を意識すると良いと思います。気になったのが、長さが短い人が多かったことです。3分でどのくらいのことが話せるのか、時間を計ってみると良いと思います。テーマ紹介→本論→まとめ、の流れで、2分30秒になったらまとめると、ちょうど良く話せるでしょう。それから、男性入賞者がいなかったのも残念でした。聞き手に好印象を与え、思いを届けるために、笑顔と「笑声」(明るく、張りのある声)を意識してみたいです。

1年ぶりに訪れたベトナムは、新しい建物や、建設中の建物があちこちに見られ、成長の速さを感じました。参加者の皆さんが、日本との架け橋になって、将来のベトナムで活躍してくれることを楽しみにしています。

審査委員 Nguyen Tien Duc（通訳・コンサルタント）



私は十数年前に、「ホーチミン市日本語スピーチコンテスト」に出場しましたが、今回、スピーチコンテストの審査委員を務めさせていただいたのは初めてです。以前発表者として経験したことや、今回、審査員の立場から見ましたが、良いスピーチをするためには、発表内容の構成と発表方法を工夫しなければなりません。

まず、発表内容を書き始める前に、確認して貰いたいことがある。一番大切なことは、みんなに伝えたいこと、すなわち自分の主張が明確になっているかということです。そして、自分をもっとも言いたいことをしっかり裏付けてくれる理由や根拠・具体的な事実・体験を整理しておくことです。さらに、分かりやすい言葉やさしい表現を使い、聞く手が楽しめるユーモアある内容を作成します。この準備が出来た上に、スピーチ原稿を書き始めてみましょう。

次に発表をする際に注意することですが、単に演壇に上がり、原稿を読むのではなく、アイコンタクトをしながら発表するのが一番理想的なのです。それに、発表場面や会場にあった声の出し方をし、制限時間内に、だらだらと列挙するのではなく、具体的なポイントに絞って述べることです。聞く手の立場を持って、発表者の姿勢、態度、表情に好感があるかということです。発表する前に、これらをリハーサルをしておいた方が良いでしょう。

最後になりますが、本コンテストの「日本体験旅行」に採用された学生の皆さんにお願いしたいことがあります。ぜひ、日本で見たこと、体験したことを通じて、よく日本の事を理解した上、よりベトナムと日本の友好関係を新たな段階に高めて頂きたいと思います。